

美という名のエネルギー

vol.3

栗原直弘

(古美術商)

第一章 エネルギーと波長 ③

「美」という名のエネルギー

前回お話したように、すべての存在は「創造のエネルギー」、「物質のエネルギー」、「生体のエネルギー」、また、それらが融合した「存在のエネルギー」であり、この論考のタイトル「美という名のエネルギー」が示すように、「美」というものもまた「エネルギー」が「物質化」したものだと考えています。

それは、和紙に墨で線を引いただけでも、

「和紙」と「墨」という物質に宿るエネルギーと、その線を引いた人の人生経験を含む、その時点までのすべての「エネルギー」が「物質化」した物だと考えるのです。

また一口に墨線といっても、子供のお習字から室町の水墨まであるように、和紙の上の「位置」や「筆致」、「濃淡」や「擦れ」などそれぞれが違うエネルギーであり、また作者の「意図」や「意識」によって、それぞれが違うエネルギー体であると考えています。そして私達は、ある特定のエネルギーが融合した線だけを「美しい」と感じていると理解しています。

存在のエネルギーと波長

私達が、和紙の上で「特定の条件」を満たした「線」を美しいと感じるのならば、「美」とは「特定の条件」を持つ「存在のエネルギー」と言えるでしょう。もちろんこのことは、平面ばかりでなく三次元の世界でも、「任意の空間」で「特定の条件」を満たして物質化した「存在のエネルギー」を「美」と認識しているのです。

そして、このような「存在のエネルギー」は、それぞれの「情報」と「意識」を持ち、人間の眼や耳では捉えられない「紫外線」や「超音波」のように、それぞれ固有の「振動数」の「波長」を有すると推論しています。いわゆる作家や職人と呼ばれる人達は、このような「波長」を経験によって体得し、

物質化できる人達でしょう。また、極まれに幼い子供が素晴らしい「美」を生むことがあります。これは偶然ではなく、その子が何らかの理由で「美」の「波長」を物質化した結果だと理解しています。

「同調」するということ

よく、「あの人は波長が合う。」などと言うように、たとえ100円ショップのマグカップでも、ところ狭しと並ぶ棚から一つを選んだのも、その形やデザイン、また色などの「波長」と、皆様の「波長」が合ったからでしょう。

それがマグカップであれ、パソコンであれ、墨蹟であれ、私達は、それらのデザインや機能などの「特定の条件」と作者の「制作時の意識」などが融合した「存在のエネ

ルギー」から発せられる「波長」を感じることで、さまざまな「選択」をしていると考えています。

近年、物理学と哲学が近づき、人間の「祈り」や「意識」も質量を持ったエネルギーであるといわれます。私達は、視覚や聴覚などで捉えた情報だけでなく、俗に言う「第六感」のようなもので、物事の「エネルギー」を感じ、その「波長」に「同調」や「反発」することで、すべての事象を「認識」「理解」しているのでしょう。

エネルギーを鑑賞している

美術品や音楽を鑑賞する時も、私達は視覚や聴覚で理解しているのではなく、その作品が内包している「存在のエネルギー」が発する「波長」に感応していると考えて

います。

そして、物事の「好み」や「魅入られる」という現象も、それぞれの「存在のエネルギー」が持つ「波長」との「同調」で説明が着き、いわゆる「縁」というものも、時間と空間を超越した「意識」や「事象」の「波長」と「同調」することだと理解しています。しかし、テレビやラジオを楽しむためには、受信する側もそれぞれの周波数に合わせなければならず、AMラジオでFM放送が聞けないように、どんなに価値のある美術品や古美術でも、その「波長」と「同調」できなければ興味が湧かないでしょう。さらに、それぞれの「波長」に「同調」するためには、その「波長」を受け取る受信機側性能、すなわち、受け手側の知識や意識も大きな要素でしょう。

(次号へ)